

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年6月8日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892800012		
法人名	有限会社 なかよし		
事業所名	グループホーム なかよし	ユニット名	
所在地	〒306-0626 茨城県坂東市小山2131-5		
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年1月13日	評価確定日	平成23年6月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域とのふれあいを大切にしながら、家庭的な温かい雰囲気の中で、その人らしくゆったりと楽しく自立的な生活が送れるように支援します。を理念に掲げ、施設の行事に地域交流会を取り入れる事により、認知症の理解、利用者との交流を深めている。</p> <p>自然に恵まれている環境の中で、利用者の生きがいを考え共に自家菜園、花壇作りに力を入れている。</p> <p>収穫した野菜を楽しみにしたり、花壇作りに関しては地元のコンクールに応募するなどの活動をしている。季節感を大切にしながら過ごしている。</p> <p>今年からは、クリスマスのイルミネーションも取り入れ、地域の方と一緒に楽しんでもらえるようにしている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は理念の実践に取り組み、利用者や地域の人々の協力のもと、温かみのある事業所づくりに努めている。</p> <p>地域住民を事業所の行事に招待し、設立2年で地域交流会に発展させるなど、相互で協力し合う関係を築いている。</p> <p>事業所の自家菜園で収穫した野菜を活用し、新鮮で安心・安全な食事を提供している。</p> <p>利用者や家族等の意向にそった終末期の支援をしている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、理念を作成し、玄関に掲示している。日常のミーティングや研修会で唱和し意識を高め、共有して実践出来るよう取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し玄関に掲示するとともに、職員会議で唱和して共有を図り実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域区長さん、民生委員さんの協力を得て、年3回地域の方々を招いて交流会を開催して交流を図っている。ご近所の方が節の物や野菜の苗、花壇に植えてほしいと花の種や球根などを持ってきてくれる。また、自治会に加入し行事や清掃活動にも参加している。	自治会に加入し、地域の行事や清掃活動に参加している。 年3回、区長や民生委員の協力を得ながら地域の人々を招待して交流会を開催している。 近隣住民から野菜や花苗などを頂いたり、庭のテーブルで利用者と近隣住民がお茶を飲みながら談笑するなど、馴染みの関係を築きながら交流している。 区長や民生委員の協力のもと、行事案内などを地域に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会や散歩で馴染みとなり、認知症の理解が深まって地域の方から良くお話をしてくれるようになった。地域の方の中に認知症、介護等のことでお困りのときは、積極的に相談に応じるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。入居者1名、ご家族1名、区長さん、民生委員さん、市職員、地域包括支援センター職員にも出席していただけるようにしている。活動報告やご意見、助言、情報などを生かし、サービスの質の向上を図っている。	運営推進会議は利用者と家族等、市職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所から活動報告をしたり、委員から意見や要望を聴き、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に電話連絡や訪問を行い、入居状況や相談等をしている。事業所のパンフレットを置いていただき地域の方に情報を提供してもらい、協力いただいている。	管理者は市担当者に事業所の利用状況を報告したり、相談などをして連携を図っている。 市の広報誌に事業所の空き情報を掲載してもらい住民に向けて情報を発信するなど、協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を、研修会で理解し「話を聞いてあげれば拘束しないで済む」という、施設長の理念のもと玄関の施錠しないで、外出したい方には意思を尊重し職員が同行したりしている。	職員は身体拘束の弊害について内部研修で理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組み、利用者の不穏時には気持ちに寄り添い、訴えに耳を傾けるよう努めている。 玄関は施錠せず、利用者が外出を希望する場合は職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の理解を深め身体的虐待、心理的虐待などを防止するように管理者や職員が目配りしている。 職員のストレスや言動に変化があれば話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度を研修会で学び、ご利用者、ご家族等の状況に合わせて施設長に相談し、社会福祉協議会等と連携するようになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者、ご家族等のご希望をお伺いし自宅での生活、過ごし方、生活パターン、困っていたり不安を感じるなどアセスメントを行い、十分な説明に努め、理解・納得をいただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、ご利用者、ご家族の意見・要望を聞いて参加者の意見も聞いて運営に反映出来るよう、管理者や職員と考えている。ご利用者・ご家族にアンケートをお願いし問題点・改善点がないか話しあっている。	家族会を発足させるとともに、管理者や職員は家族等の面会時や事業所の行事、家族会開催時に利用者や家族等の意見や要望を聴くよう努めている。 玄関に意見箱を設置しているが投函実績はなく、面会でも利用者や家族等の意見等を汲みあげるまでには至っていない。 家族アンケートを実施しているが、結果を集計するまでには至っていない。	家族アンケートの回数を年2回に増やす予定なので実現することを期待する。 家族アンケートの結果は集計し運営に反映させるとともに、経過や結果を家族会などで報告することが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は、職員の個人的事情も含め、常に話し合うことが大切と考え声かけをしている。管理者・主任が役割を分担して職員の意見や提案を聞き、検討結果を記録している。	代表者はミーティングや申し送り時に職員の意見等を聞き、運営に反映させている。 管理者は職員が意見を出し易い関係づくりに努め、職員は日頃から管理者や責任者に直接意見を伝えている。 出た意見等は記録し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月行う研修会や話し合いの場を設け、給与、労働時間、不満や精神的ストレスがないか等、職員から意見を聞き常に職員が、仕事をしやすい環境を整えるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受けるよう促し、申し込みをして参加するようにしている。職員間でも介助方法や接し方など、良い方法を考え話し合いながら、お互いがスキルアップできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域施設部会等に参加し、勉強会をしている。他施設の方交流を持ち、お互いの情報交換をしてネットワーク作りをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話を良く聞いて、安心していただけるようにしている。生活の中で、常に困った事、不安な事、して欲しい事などを聞きながら、慣れていただけるよう、職員との関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の自宅での生活を教えていただき、状態や困っていた事、不安な事などを聞いている。自宅で大変だったと思う気持ちに寄り添いながら、良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、ご本人、ご家族との十分な話し合いの中で、要望、状態にあった支援の方法を考え福祉用具、理容サービス、訪問歯科等必要なサービスについても取り入れるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者を昔の風習や生活の知恵を教えてもらいながら、寄り添い共に暮らす家族同様の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議にご本人、ご家族に出席していただき活動報告、近況報告をしている。家族会を発足し、その際にはご本人とご家族の団欒の場を設け、絆を大切に共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人には、気軽に面会に来て頂き、お部屋でゆっくりとお茶を飲んだり、食事をして頂いたり支援しています。お盆、お彼岸など外出を希望する場合は、家族に連絡を取り、家族や馴染みの人と過ごす時間を作るようにして頂いています。	職員は家族等や知人の来訪時にはお茶を出し、居室で談笑したり居心地よく過ごしてもらえよう支援している。 職員は利用者が盆や彼岸、正月などに家族等と過ごせるよう、家族等に連絡をとり利用者の希望を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、トラブルにならないよう、タイミングを図り声掛けをして、お話ができる場を設けたり、一緒に行うレクレーションなどをして、孤立しないようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も会いに行ったり、看取った方のご家族が度々事業所を訪れてくれたり、こちらからも連絡を取り、退去された方、亡くなられた方のご家族との関係を保ち時には、相談・支援するようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が常に声を掛けたり話を良く聞き、日常会話や表情などから、本人の意向など伝えやすい環境づくりに心掛けている。	職員は利用者に声をかけ、表情から思いや意向の把握に努めている。意向の把握が困難な利用者は家族等の面会時に話を聴き、家に居た時の情報を得るように努めるとともに、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、入居前のケアマネジャーなどから生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等、情報収集しご家族や、職員と共有しながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が心身の状態把握に努め、血圧、体温を測り体調や様子の変化に気づき対応できるように心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、ご本人、ご家族等と話し、職員の気づいた事や意見を取り入れながら、介護計画を作成しご家族の同意を得ている。	介護計画は家族等の面会時に聴いた意見や要望を取り入れて6ヶ月毎に作成するとともに、家族等の同意を得ている。 月1回、全職員で話し合いモニタリングを実施するとともに、心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の際、ケアの実践・結果気づきや工夫した事を記入し、職員と話し合い共有しながら、日々の生活に取り入れ活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況・希望に合わせて面会時間を決めず、心配な時は宿泊することが出来る体制も整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と一緒に散歩する事により、ご近所の方と顔なじみになり挨拶を交わし、お話をしている。また事業所に訪ねて来てくださり、一緒に花壇を眺めながら昔話をしたりして楽しんでいる。高校生・地域ボランティアとの交流も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人、ご家族等に協力医を主治医とすることを説明し、承諾を頂き、週1回の往診を受けている。状態の変化、緊急時は、24時間連絡が取れる体制となっており診察に応じてくれる。	協力医療機関の医師を主治医とすることを契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ている。 週1回の訪問診療や状態が急変したり緊急時には24時間受診ができる体制を築いている。 皮膚科や眼科などの受診は家族等が付き添うこととしているが、家族等の事情に応じて職員が付き添えるよう支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、必ず看護師が同行してくださるので、利用者の日々の健康状態や変化を伝えている。また、介助の留意点、服薬の仕方等の相談をし、アドバイス頂きながら支援するようにしている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医以外にも協力医院としての医療機関も定めている。入院処置が必要となれば、主治医と連携をとり対応することとなっている。退院後の受け入れ体制を整えるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に終末期、重度化されたときの方針をご本人、ご家族等と話し合いをし、意志を確認している。状況の変化時は、再度確認し希望に添った終末期を送れるようにしている。医師と密に連携を図り、ご家族・職員と一緒に支援している。</p>	<p>事業所では看取りの経験があり、重度化や看取りに向けた事業所の対応指針を作成するとともに、契約時に説明している。</p> <p>終末期の段階になった時に主治医から家族等に説明があり、事業所でできること、できないことを説明するとともに、希望にそって支援をしている。</p> <p>看取りに向けて医師や看護師と24時間の連絡体制を築いているが、職員の意識と知識習得が重要な課題である。</p>	<p>終末期介護に向けた職員研修を行い、医療関係者の講話を取り入れるなどして職員の不安を軽減するほか、家族等を支える精神的支援の質の向上を図ることを期待する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は、急変時や事故発生時に備えて応急処置が出来るようにしている。急に倒れられた方がおり、応急処置を施し、医師との連携をはかり、大事には至らなかった利用者がいます。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、避難訓練を行い消防署、市役所職員、ご近所の方に参加をお願いし、昼夜それぞれの状況を想定し、実施している。消防署のアドバイスを頂き、建物外部に音で知らせる警報器を取り付けたり改善を図っている。また、災害用品も常備している。</p>	<p>消防署立会いのもと昼間や夜間を想定した避難訓練を年2回実施し、市職員や近隣住民の協力を得ている。</p> <p>災害時に備え乾パンや飲料水、簡易トイレ、懐中電灯、毛布、救急用品を備えている。</p> <p>建物外部に音で知らせる警報器を取り付け、緊急時に地域の協力が得られるよう工夫をしている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、一人ひとりに対して言葉づかいや対応には、気をつけるようにしている。利用者の書類は、鍵がかけられる事務所に保管している。	職員は利用者を昔の風習や生活の知恵、料理などを教えてくれる人生の先輩として尊重し、わかりやすい言葉遣いやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話や行動から「何がしたいのか」「何を望んでいるのか」思いを理解し表現しやすい環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、状態に合わせ、ご本人の希望を大切にしながら、時間に追われないでゆったりと過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に選んだ洋服を着ていただくようにしたり、希望により地域の理容店や、美容室に行きパーマや毛染めなど、その方らしい身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れ、どのような料理にしたらよいか一緒に考えて得意だった料理を作っていたり、漬物を漬けていただいたりしている。作る楽しみ、食べる楽しみも大切に、一緒にやっていたりしている。	利用者の重度化に伴い、食事の準備や後片付けは職員がしている。食材は職員が買出ししているほか、事業所で収穫した野菜や近所から頂いた野菜を取り入れている。職員は弁当を持参しているが、利用者と共にテーブルを囲み、声をかけたり食事介助をしながら時間をかけて食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の職員がその方の状態、好みに配慮し、美味しく食事が摂れ栄養バランスの良いメニューを考えている。水分摂取は、状態に合わせ回数を増やしたり、飲み物を変えたり、工夫しながら摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで介助し義歯の洗浄、歯磨きはできるだけ、ご自分でやっていたりするように援助しながら、口腔内の清潔を保つようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録で排泄パターンや生活のリズムを把握しトイレ誘導をして、トイレでの排泄を勧め、自立していただけているようにしている。立位が困難な利用者もトイレで排泄できるよう職員が二人介助でおこなっている。	排泄チェック表を活用するとともに、職員はさりげなく声をかけ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援をしている。夜間は職員介助のもとポータブルトイレを使用し、なるべくおむつを使用せずにトイレで排泄ができるように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家菜園で収穫した野菜を食事メニューに取り入れ、食物繊維を多く摂取していただけるようにしている。多目の水分補給とヨーグルト、バナナなどを勧めている。また、生活リハビリなどをして予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週3回となっているが、毎日用意し利用者の体調、希望に応じて対応している。入浴を楽しんでもらえるよう、菖蒲湯、ゆず湯、馴染みのみかんの皮を干し、袋にいれたものを入浴剤にしたりしている。医師の指導により、終末期であってもできるだけ、湯船に入らせていただくように支援している。	入浴は週3回を基本としているが、回数にとらわれず利用者の希望にそって支援をしている。 終末期になっていても医師の入浴許可がある利用者には、職員2人体制で入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動で夜間の睡眠がとれるようにしている。日中も部屋で休んだり、テレビを見ながらソファで横になって休んでいる。各部屋の室温は、本人が過ごしやすい室温にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの説明と、薬局薬剤師とも連携し、薬の作用、副作用を理解し服薬介助、服薬確認、服薬後の観察をしている。薬が変更されたときは、家族にも伝え職員とも連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自家菜園で収穫した野菜の下ごしらえをしたり、漬物が得意な方には、漬けていただいたりしている。花壇の花の手入れもやり方を、教えてもらいながら一緒にしている。洗濯物は、できるだけ自分のものは、たたむよう勧めている。誕生会のケーキは、デコレーションしてもらい、喜んでいただいている。塗り絵、散歩も楽しみの一つとなっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望、体調、天候に合わせて散歩に出掛け、地域の方と触れ合う機会を作っている。庭に出て花壇を眺めながら、お茶を飲んだりしている。美容室に行きたい方や花見、部落の盆踊りなど職員が同行し、その際に外食をしたりしている。帰宅・外出の際は、家族の協力を得ながら支援している。	利用者は天気の良い日は屋外でお茶を飲んだり、事業所周辺を散歩して近隣の人々と挨拶を交わしている。 買い物など利用者の希望にそって外出ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、自分で所持して、買物、美容室の支払い等、家族了承のもと本人がされている。出来ない方は必要に応じ家族にお願いしたり、事業所で立替るなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族や知人等に電話をかけたいと、希望があれば事務所の電話を使っただけにしている。手紙のお返事をかいていただき離れた家族とのやりとりの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間、浴室、トイレ、食堂には、庭で咲いた季節の花を絶やさないように生け、廊下、食堂の壁には、行事の写真、利用者のちぎり絵などを飾っている。また、加湿器を玄関、食堂に置き湿度に配慮したり、音楽を流し、和みの空間を得られるようにしている。	玄関や居間、食堂、トイレなどの共用空間には季節の花を飾り、温かみのある雰囲気となるよう工夫をしている。 熱帯魚や犬を飼い、心が和む空間づくりに努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で趣味の時間を過ごしたり、面会の方が来たときは、部屋でゆっくり気兼ねなく過ごしていただいている。気の合う方を自分の部屋に招いてお話したり、お茶を飲んだりしている。また、玄関、食堂などソファでくつろげるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、床暖房を備えている。家族等の写真、馴染みの家具、テレビなどを家族と相談しながら、持ち込まれている。亡きご主人の写真を飾られ、お水、お花を供える利用者もいる。	居室は床暖房を備えており、利用者はテレビや鏡台、テーブルなど使い慣れた物品を持ち込んだり、位牌を置いて花や水を供えているほか、家族等の写真を飾り、居心地よく暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、段差がなく玄関、トイレ、廊下、食堂。浴室に手すりを設置している。「車いす使用をできるだけしない」を目標に環境を活かし、時間がかかっても、筋力が低下しないようできることは、見守りながらおこなっていただくよう支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなかよし

作成日 平成23年6月23日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族アンケートを実施しているが、集計するまでには、至っていない。	家族アンケートを年2回実施し、集計して運営に反映する。	実施したアンケートの集計結果を家族会などで報告し、質の向上に生かす。	平成23年度末
2	33	看取りに向けて医師・看護師と24時間の連絡体制を築いているが職員の意識と知識習得が課題である。	医療関係者との連携により、職員の不安軽減と家族等の精神的支援を図る。	医療関係者と終末期に向けた職員研修を行い、家族等の精神的支援となるように取り組む。	平成23年度末
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。